

「グローバル教育実践演習」を通して学んだこと

山崎 愛依

1. はじめに

本演習では、中国と韓国を訪問し、教育施設の見学や授業参観、研究交流会などを通して各国の教育の実態に触れる機会を得た。私はこれまで、自身が置かれている状況の中で教育について考えることが多かったが、本演習を通して他国の教育や研究に直接触れることで、自分の教育観を見つめ直すことができた。

また、台風の影響により予定していた授業を実施できなかつたり、帰国が遅れたりするなど、予期せぬ事態もあった。しかし、そうした出来事も含めて仲間と協力して乗り越えた経験は、本演習をより印象深いものにした。本レポートでは、今回の演習を通して得た学びについて簡潔に述べる。

2. 学んだこと

今回の訪韓・訪中の経験を通して最も印象に残ったのは、日本の教育との違いを実感できたことである。これまで私は、日本で当たり前の前提とされている教育観や価値観を疑うことなく受け入れてきた。しかし、実際に他国の教育に触れることで、日本で育ってきた自分の価値観が必ずしも普遍的なものではないことに気づかされた。

特に研究交流会では、中国側の発表が非常にスケールの大きなものであり、最新の技術を取り入れた研究が行われていることに驚いた。私はこれまで、教育現場の実態に即した比較的狭い視点から教育実践の研究を行ってきたが、社会や教育制度全体を見据えた研究に触れたことで、自分の研究の捉え方についても新たな視点を得ることができた。

また、実際に現地の方々と交流する中で、直接現地を訪れることの大切さを実感した。現地の方々は非常に温かく迎え入れてくださった。また、教育をより良く発展させようと研究や授業実践に真摯に取り組んでいる姿は非常に印象的であった。この経験を通して、他国の教育を理解するためには、インターネット上の情報だけでなく実際に交流し、自分自身の目で見て学ぶことが重要であると感じた。

さらに、他国の教育を知ることによって、日本の教育の特徴や良さについても改めて考えることができた。異なる文化や価値観に触れることで、自分の視野が広げ、多様な視点から教育を捉えることの重要性を感じた。

3. おわりに

これまで私は、自分が行う授業実践の在り方など、目の前の教育実践について考えることで精一杯になることが多かった。しかし、今回の演習を通して、「この授業や教科は何のために行うのか」「他国ではどのような教育観が大切にされているのか」といった、より広い視点から教育を捉える必要性を感じた。

今後、グローバル化が進む社会の中で教育に携わる者として、他国の教育から学びながら、日本の教育の良さも大切にしていける姿勢が求められると考える。本演習で得た経験と学びを生かし、多様な視点から教育を捉え続ける教員を目指していきたい。